

大友氏顕彰だより

おおとも

第 75 号

発行責任者
理事長／若杉孝宏
編集・印刷
事務局長／
佐藤弘俊

■ 4 月の定例学習会報告／4 月下旬発送済
会場／大友氏遺跡内…南蛮 B V N G O

4 月 4 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分

① 近況報告(役員)

イ・ 8 年度会費納入状況／会報 74 号
発送報告

◎ 会費入金状況／4 月 4 日現在、約半数
の 80 数名、

◎ 総会 5 月 20 日開催の件／先日配布し
た委任状が 25 名弱、昨年とほぼ同じペー
スで届いている、NPO 法人の規定では
全会員数の過半数を超えなければ総会は
不成立。過去 14 年一度もない。

◎ 会報 74 号発送の件／▲メール送信約
70 名、▲郵送約 100 名弱。郵送は手間
と経費がかかるのでできる限りメール登
録してほしい(詳細省略)。

◎ 「おおいた共創基金」よりプロジェク
ター贈呈、初披露。今回の例会から大分
県関係の公益財団法人から補助されたプ
ロジェクターを使用、参加者は手元の細
かな資料に目を落とさず発表者に集中、



同時にスクリーンを見ることができ、そ
の効果は想像通りだった(写真右)。

ロ・ 大河ドラマ推進協会長としての
上期予定、8 年度フォーラムのテーマ
発表(牧)

◎ 2 月に佐藤大分県知事ほか首長 2 名と
NHK を訪問したが上期の近い時期に福
岡県知事と一緒に往くため数回の打ち合
わせが必要となる。

◎ 9 月に宮城県の会員の大友直樹氏を訪
問予定、義統の子孫と伝えられる東北の
歴史を調査・取材する。全国に 3400
0 人の大友姓がいるが約 7 割が東北らし
い。このことを NHK に訴え、大友氏の

ドラマが実現すれば視聴範囲は全国規模
となることを知らしめたい。

◎ 11 月のフォーラムのメインテーマは
「大友氏顕彰の歴史」。江戸時代から昭和
60 年代まで数々の顕彰の波があった。歴
史的な人物や事柄を顕彰する場合、その
「顕彰史、研究史」を知ること重要で
ある。一つの例として『大友氏の風景
(13)』でも大正 13 年の宗麟三位追贈を
取り上げた。また 2 部では東北の大友姓
の調査報告をする。

ハ・ 宗麟公供養祭(5 月 23 日)について
(林白杵支部長)。同時に 4 月 2 日に開催
された「第 2 回白杵桜まつり・カラオケ
大会」の模様を紹介した。主催は大友氏
顕彰会白杵支部。若杉理事長が出席あい
さつした。なお、参加益から林支部長か
ら寄付金 1 万円を大友氏顕彰会に贈呈が
あった。事務方として運営された北島俊
一会員共々に謝礼を述べた。大分から植
木直正会員が出演、そのプロ並みと言っ
ていい歌唱力に驚いた。

付随して、

清田姫の
墓を若杉
理事長が
紹介した
がこの墓
の存在を
知ってい



たのは牧会長と大塚会員のみだった。
 ニ・新しい大友宗麟画像／知人の画家
 がオリジナルの宗麟像を描く。現在はAI
 利用で効率的に様々な年代の宗麟画像
 が可能。2
 030年ま
 で宗麟の成
 長段階を画
 像表現し、
 PRに使用
 したい旨、
 その画像を
 参加者に発
 表した。



②講演「真名野長者実在説に立ってみ
 る」と源平合戦と義経・緒方惟栄

講師・大嶋 一任 氏

開口一番、『平家物語』にも登場している
 緒方三郎惟栄が日本史にほとんど登場
 しないのは何故か？緒方惟栄に限らず
 豊後大分の歴史がほとんど無視されて
 いる！この疑問と憤まんをぶちまけた。
 まさにその通りで心の内で拍手を送っ
 た。自分(若杉)もかねがねこのことに不
 満を持ち、先人の大分県の歴史家、ある
 いは行政マンの文部省等中央官庁への
 働きかけの怠慢(言い過ぎは自覚してい
 るが、県民性も影響か)ではないかとの
 想いを親しい仲間のみに話してきた。60

分の予定だったが20分オーバー、それ
 も足りなくて主催側として申し訳なかつ
 た。レジュメをいただいたのでそれをも
 とに『大友氏の風景(14)』に掲載する予
 定である。この議事録は字数が限られて
 いるのでレジュメの項目のみを記述する。
 【1】なぜNHK大河ドラマ「鎌倉殿の
 13人」に、緒方惟栄は登場しないのか、
 という奇妙さ不思議さ。テレビドラマだ
 けではなく、歴史書などでも同様、登場
 しない。その中で参考にした書籍『源平
 の雄緒方三郎惟栄』渡辺澄夫著。『臼杵石
 仏』大久保貫之著。

【2】それゆえ、頼朝と対立後、義経が
 豊後に向かうとしたことが「隠され」
 多くの人は知らないままに。「義経、豊後
 に向かった」ことを聞くと、ビックリさ
 れます。豊後(大分県)を見直すキッカケ
 になります。

【3】どうしてこのようなことが起きて
 いるのか？

③義経の豊後行きを「隠蔽」なぞのまま
 にする・否定する。

【4】私は【3】の逆を追及している。
 ④源平に内乱(古代社会→封建社会への
 変革期)

1174年3月3日、義経が鞍馬山寺を
 脱出した。これを「金売り吉次、京都の商
 人」が支援、奥州へ。途中、鏡の宿(滋賀
 県竜王町鏡)に泊り元服。吉次は馬上に、

義経は刀持ち乗馬の手綱持ちの下人に変
 装。(『平家物語』「烏帽子折」幸若舞な
 ど)。



⑤以下、時系列で義経が頼朝と会い、源
 平合戦での活躍、その後頼朝から不信を
 買い、緒方惟栄の支援により豊後に逃れ
 ようとするが失敗した。奥州藤原氏を頼
 ったが結局藤原氏共々滅亡した。頼朝没
 後二十年以上経った1221年承久の乱
 で北条氏の天下に。その後三浦氏の台頭
 に危機を感じた北条氏は1247年、宝
 治合戦で三浦氏を滅ぼした。その後、三
 浦氏傍流は豊後国東の安岐へ、大友氏に
 仕えることになる。以上。

そのところまでを記述しているが、字
 数制限のためこの議事録では割愛させて
 もらった。全編収録は10月発行予定の
 『大友氏の風景(14)』に掲載する。



③昭和100年

「心に刻まれた日本人ベスト10」

先月提案のこの企画だが若杉を除き、原稿提出第1号は江藤孝文氏のみだった。その後発案者の佐藤副理事長が寄稿。二人とも10人に対する思いが強く、字数が定数よりも多くその分小さくなっているが、出稿数によつては少し大きくして読みやすくしたい。ただ寄稿者はデータ入稿とする旨再確認させていただいた。私一人で入力するには荷が重すぎるから。もし入力してくれる方がいれば手書き原稿でも受け付けたい。

令和8年度非特定営利活動法人

大友氏顕彰会 通常総会 議事録

日時／令和8年5月20日(水)

13時～14時30分

会場／大分市コンパルホール305

【出席者】若杉孝宏、牧達夫、佐藤弘俊、藤田賢治、大塚雄一郎、溝部幸祐、足立義弘、矢羽田光、植木直正、江藤孝文、稲葉茂雄、田北雅一、尾下武彦、林壮一朗、幸野宏城、臼杵将吉、平岩禎一郎。

司会(藤田賢治理事)／「この総会は委任状を含め、正会員の過半数の出席が求められる。本日の出席17名、委任状の提出が84名、計101名。4月30日時点での会員数が177名、したがって過半数を超えているので通常総会は成立」したことを宣言。ついで議長選挙に移り会場から求めたが挙手なきにより、溝部幸祐事務局顧問を推薦、満場一致で選出した。溝部／資料にしたがって進める。まず「1号議案、令和7年度活動報告」、若杉理事長を指名。

若杉／これより議題に入るが、その前に一言。

先ほど数年ぶりの理事会を開催した。理事27名中、出席が11名、返事なしが4名、12名が欠席。

理事長の問題提起に対する反応。また、宗麟・義統・奈多夫人など主な人物の画

像を作成、2030年まで順次イメージとして使っていく。

若杉／それでは「第1号議案、令和7年



宗麟の受洗は49歳、若い義鎮が「襷襟」を巻くことはない。ザビエル謁見後ならこのようなマントはあり得る。

度の事業報告」。会として全体の活動項目のみを読み上げる。内容については総会資料参照。次に牧達夫名誉理事長の活動報告。対外的に「大河ドラマ推進協議会会長」として活動しており、主にその立場で説明した。

牧／「大友宗麟を大河ドラマに！」を旗印に1.NHKへの要望活動、2.主要都市の大分県人会における広報活動、3.各種団体での広報活動 ※総会資料参照

若杉／次に7年度活動報告の最後に『お

おとも会報』発行状況について説明。※総会資料参照

溝部／次に「2号議案、令和7年度の活動計算書報告」に移る。佐藤事務局長を指名。

佐藤／資料にしたがって読み上げる。

※総会資料参照

溝部／次は「第3号議案、会計監査報告」。昨年引き続き井本盛夫監事と新たに植木直正会員が就任、監査した。植木直正監事が報告／資料の文言を読み上げる。※総会資料参照

溝部／次に「第4号議案、令和8年度事業活動計画」について。会全体としての活動計画は若杉理事長に説明を求める。若杉／記載の各項目のみ読み上げる。各項目の詳細は牧名誉理事長から報告する。

牧／資料にしたがって読み上げる。次にその資料にはないが現在、大分県知事ほか主要メンバーと2030年「宗麟公生誕500年記念イベント」の素案を発表、ヨーロッパに残る宗麟の絵画を招聘、巡回展示や大分県を中心に大友氏と関連する各首長を招きデイスカッションなどの計画を発表した。

溝部／次に「5号議案、8年度活動予算」、佐藤事務局長を指名。

佐藤／7年度収支を参考に8年度の収支を算出し計画。※総会資料参照。

そのほか推進協議会としての活動と連動するが、8年度はある程度自由の身になったので個人の立場でヨーロッパ視察(宣教師の足跡など)を予定している。若杉／補足説明・この予算案の根拠は未

確定部分が多く従来の結果を参考にした。今年の1%応援事業の補助金は、上限20万円(総額35万円に対し)『大友氏の風景(14)』が対象になる。集票活動の負担は数名の役員に偏ることなく一会員均等(20名×15票＝300票で満額)にお願いしたい。

因みに現在8年度会費の納入結果を報告。昨年度期末の会員数は179名、8年度退会願いが11名、新入会員が9名、現段階で177名、未納が80(昨年50)名前後。昨年度比未納率が高い。

溝部／最後に「6号議案、役員の選任」一覧表を読み上げる。※別資料「理事・幹事会」報告書参照

若杉／役員の確定。先ほどの理事会において会計は佐藤弘俊副理事長が担当することに決まった。※別資料「理事・幹事会」報告書参照

司会／全議案の終了に伴い溝部氏の議長を解任する。最後に「その他」に移り参加者から意見を求めた。林壮一朗臼杵支部長より、明後日23日の「宗麟公440回忌法要と墓前祭」への参列要請があった。また、今年度になるが、4月2日13時臼杵桜まつり協賛「宗麟公を顕彰するカラオケの集い」、会場／臼杵城公園特設ステージ 参加50名の報告があった。若杉／今日は長い時間のご協力ありがとうございました。

うございました。今後の皆様のご協力をお願いして「令和8年度通常総会」を終了いたします。

なお、2日後の23日「宗麟公440年御遠忌法要と墓前祭」を執り行った。詳細

は報告済みにつき愛しました。



10時「樹林寺にて法要」

11時「墓前祭、宗麟墓地公園」

12時「史跡・清田姫の墓見学」

13時「昼食会、樹林寺」



NHK 大河ドラマ「大友宗麟」誘致 推進協議会全体会議(総会) 議事録

日時／5 月 20 日(水)

14 時 40 分～15 時 30 分
会場／大分市コンパルホール 305
出席者 21 名。司会進行あいさつ割愛

令和 7 年度の活動報告(以下詳細は総会 資料参照)

牧／1 頁めに 7 項目ほど記しているの
を読み上げた。以下に項目と要約を記す。
(1) 宗麟公生誕 500 年に向けて。この
総会資料の記述よりかなり進展があつ
た。知事他の関係者とは素案では一致し
ている。即ち「ヨーロッパに存する宗麟
の絵画の巡回展示」、「大友氏にゆかりあ
る全国各地の関係者を招いての討論会」
など。

(2) 大友氏顕彰フォーラム、大分と国東
の開催報告。大分でのテーマはアルメイ
ダ生誕 500 年「アルメイダの生涯」と
して牧会長自身が講師を務めた。入場者
数が両会場とも 100 名を切ったのは
初めて、原因の分析は必要だが「継続こ
そ力なり」、8 年度も実施するが大分開
催のみとする。なお、同時に牧会長が自
費出版した『アルメイダの生涯』を両会
場で販売、非常に簡潔にまとめてあり、
分かりやすいとの評価を得た。推進協議

会から 6 万円補助し、その代わり売り上
げは協議会の収入とした。

(3) 宗麟公 439 回忌供養祭について。

一昨年から石川津久見市長の参列、今回
も参列された。臼杵市も行政や商工会議
所などの参列が常態化しており恒例化し
てきた。合同新聞社の記事の効果も大き
い。

(4) 会員拡充と協議会活動強化について。
3 項目挙げているが特に 2 項目は次の
(5) と連動する。これが推進協議会にと
つて重要課題。

(6) 大友氏ゆかりの市町村、政財界、文
化人との連携・交流をしているが、より
一層広げ深めることが重要だ。現在柳川
市の立花宗茂の大河ドラマ化活動とも協
力し合う態勢が整ってきた。8 年度は同
一行動する。歴史ファンなら立花氏(宗
茂)が大友一族であり重臣だったのは周
知のこと。

(7) NHK への大河ドラマ要請活動。今
年 2 月、佐藤大分県知事、西岡臼杵市長、
石川津久見市長と同一行動が実現した。
NHK 側の「戦国時代の九州はおもしろ
いですね」との反応に意を強くした。

(8) 顕彰会の研修バス旅行。7 年度は柳
川の御花と八女市黒木町の五条邸。二つ
とも豊後外で最も大友氏と縁が深い。今
後この研修バス旅行については推進協メ
ンバーの参加(毎年呼び掛けているが)も

望みたい。

牧達夫会長単独活動

総会資料に列挙した項目は 42。うち 23 項
目は純粹に推進協議会活動。19 項目は地
域活動と老人クラブ全国活動で、その半
分は大友氏の PR である。

事務局役員活動

若杉副会長は 7 項目、佐藤副会長は 6 項
目だが、うち 2 項目は他団体の例会担当
で年間約 20 回の活動実績を残す。11 月に
は新規イベント「府内の町・文化フェス」
を主催(ほぼ単独)した。藤田事務局次長
は大分市文化財課と観光課のボランティア
アガイドのメンバーとして毎月数回、年
間 3 ～ 40 回の実績を残している。

決算報告

藤田賢治会計担当が資料を基に説明、収
入は全額会費に負う。入金一覧表、収支
一覧表、支出積算根拠一覧表と 3 ページ
にわたり表記にしたがって読み上げた。
当初予算から冊子売り上げほか雑収入で
数万円増加、しかし支出はそれ以上に増
え、繰越金が前年度よりも減少した。全
国展開を図るため各地の県人会の出張費
が増えたことによる。続いて平岩禎一郎
監事が監査報告した。

8 年度活動計画

牧／一応資料に挙げているがあくまでも予定、変更は十分にあり得る。自分一人の行動はともかく、複数人(超多忙な首長たち)での行動はスケジュール調整に苦労する。まず直近の予定から。

6月5日、福岡県人会出席

6月12日、柳川市長を訪問、今後の統一活動の方針を協議する

7月25日、神奈川大分県人会 60 周年記念行事に出席、大いに PR する

9月4日、福岡県知事を柳川市長とともに訪問、大分県・市との共同戦線をいかにするかを話し合う

9月29・30日、宮城県名取市を訪問、これについては若杉副会長から説明

若杉／昨年、我々の活動を知った名取市出身(東京在住)の大友さんから連絡があり、宮城県の大友氏は義統公の子孫だという。さっそく入会してもらいメール交信を続けている。※今日の配布資料、顕彰会の会報「おおもとも73号」に掲載、参照。大友氏は関東以北に3万人以上存在するという。全国展開するには東北地方の大友さんと協力していく事が重要だとの認識にたつ。直接会って懇親を深めたい。その際マスコミへの対応が欠かせず、全国ネットのTV局、新聞社、ケーブルテレビなどに相談・情報発信することが当面の仕事である。

牧／そのようなことで次にNHK訪問時にはこれを強調して、大友氏関連(立花宗茂など)の大河ドラマの視聴は全国規模だと訴えるつもりだ。

次に恒例のフォーラムは11月14日、今年は大分開催のみ。テーマは「大友氏の顕彰の足跡をたどる」。坪根伸也氏による講演を予定。現在当顕彰会のほか、数団体が大友氏の歴史を研究しているが「顕彰活動」に特化しているのは我われのみ。

しかし歴史を紐解けば、実は江戸時代から大友氏の研究・顕彰は行われてきた。その足跡をたどり百数十年以上の顕彰活動も継続性が重要だと訴えたい。次の研修バス旅行の説明は若杉副会長より。

若杉／今年は「日向高城川合戦跡と高城跡、その戦没者の供養祭に参列」を企画。

11月12日がその日である。宮崎の民間団体と商工会議所主催だが木城町・川南町が協力、また山香町の「鎮周会」が40年ほど前から参列、自分もその一員である。顕彰会の第1回目の研修バス旅行は15年前につき現会員の6,7割は初となるのでぜひ多くの参加を期待する。

また、10月発行予定の『大友氏の風景(14)』の表紙に使用する宗麟画像を紹介したい。総会資料に2点ほど掲載したが、原画1点描けばAIによりさまざまなバリエーションが可能だということで、2030年まで5年間、毎年変化していく

宗麟画像をみせたい。

佐藤／次に推進協議会活動の歩み・2013年に発足以来13年間の表を作成・説明。大河ドラマの放送パターンを見ると3、4年ごとに戦国時代を取り上げている。そのパターンで行くと2030年の実現性が高い。現に今年になって宗麟を取り上げる番組が増えてきたようだ。先日の「宗麟の勝負飯」、NHK・Eテレ6月9日(火)10時「知恵泉」で取り上げられた。またBS11でも宗麟が放送された。今後のマスコミの報道・番組に注目してほしい。

8 年度の予算案

藤田／資料に基づき説明。ほとんどは前期に準じるが、今年は宮城県名取市への出張費が目立つ。予算的にはフォーラムが大分のみで地方分の予算が充当できる。若杉／二重振り込みがあったので当事者には伝え、この場でも報告した。

牧／最後に宗麟公生誕500年の2030年の記念イベントは5月の最終土曜日に「フォーラム」を予定、その際ヨーロッパに存在する宗麟の絵画数点を借りてきて展示する。展示会場は数か所を考えている。フォーラムは大分県内のメンバーの首長、また柳川市長や福岡県知事にも出席を呼びかけたい。イベント内容については腹案(各首長それぞれの宗麟に對



する思いやエッセー募集など)はあるが発表は役員と打ち合わせてまたの機会にしたい。それらの実行委員会を8月中旬くらいに立ち上げたい。

若杉/最後に、総会資料のほかに会報73号を入れている。宮城県名取市の大友直樹氏の資料を掲載しているのは是非目を通していただきたい。本日はお疲れさまでした。記録者/若杉孝宏(事務局)

牧達夫名誉会長が一昨年新しく生まれたすてきな大分を見つけ、伝えよう!の定例会で報告、非常な好評を得たので寄稿していただきました。次に転載します。

3月講話会

『戦国大名 大友宗麟』ご報告

皆さんこんにちは。去る3月の講話会は、九州をはじめ大分県、大分市の老人クラブ会長を務め現在NPO法人大友氏顕彰会名誉理事長でもある牧達夫先生をお迎えして、戦国時代に九州6か国の守護大名として活躍し、また貿易を通して新しい南蛮文化の到来にも大きな貢献を果たしました“戦国大名大友宗麟”についてお話を伺うことができました。

牧達夫先生(写真)は、現在「大友宗麟をNHKの大河ドラマに」とその推進協議会会長としても情熱を注がれておりこの度その取り組みについてもお話がございました。

今回は、その講話の要旨を報告させていただきます。



演題

「ヨーロッパ強国進出に正面から向き合った戦国大名大友宗麟」

講師/牧 達夫 氏

(九州・大分県・大分市老人クラブ会長)

1. 大友氏・大友宗麟を知ったきっかけ

私は大分市古国府(ふるこう)の生れで、今から75年程前になりますが、小学校の4年か5年の頃、学校の講堂に「大友花園屋敷址」という大きな絵が飾ってありました。先生からこの絵はこの古国府の鎌倉時代の話だよと聞かされたことが大友氏を知るきっかけとなりました。この大友花園屋敷は大友3代の頼泰(西暦1200年代)の頃建てられたと言われます。

その後、大学を出て就職した会社の最初の勤務地は臼杵でした。ここで野球部の先輩から臼杵の街は宗麟がつくったよと丹生島城だけではなかったことを教えてくれたのです。その後勤務地は、長崎、熊本と変わり最後は福岡の博多でした。その福岡では、私が大分の出身であるのと福岡も大友宗麟と随分関係があるよと逆に教えてくれたのです。そのお陰で宗麟や大友氏のことに関心が強くなりやや詳しくなっていくのですが、まだ満足できるものではありませんでし

た。

定年となり大分に帰り、これでやっと本格的に学べると思え直ぐに郷土史に詳しい加藤貞弘先生を講師に『古国府歴史研究会』というものを立ち上げたのでした。会員が 20 名程でしたが、「大友氏の歴史」や「大分の歴史」更に「南大分の歴史」等を学んでいきました。そして 8 年程たったのですが、それまでの研究会で学んだ内容を一冊の本にまとめました。今から 20 年程前になります。『南大分および周辺の歴史散歩』を出したのでした。この本は大変好評で 2 千冊売れました。市民の皆様は大友氏や大友宗麟の理解の助けに役だったのではと思っています。

これで一区切りができたかと思っていたのですが「研究会の活動をここで終わらせないで欲しい」との声があり、今から 15 年程前になりますが、平成 23 年(2011)に NPO 法人大友氏顕彰会を立ち上げ、現在に受け継がれています。

2. 大友宗麟(1530~1587)の功績と人物像

《外交》

大友宗麟は、当時の日本の置かれていた立場を非常によく理解していたと思います。ポルトガルから何故日本に来たのかといえ、端的に言えば植民地化で

した。しかし、日本に来ますと国民の知識レベルが高いということが分かり宣教師は日本の植民地化は難しいと本国に書き送ったのです。これには宗麟も絡んでいたとみています。貿易のことだけではなく宗麟は外交も考え動いていたと私は捉えています。

《人物像》

宗麟という人は、普通の戦国大名とは少し違うところがあります。寛容さがあり、人との付き合いを大事にし、また人間らしさがありました。最後はキリスト教に入り、キリシタンとして生涯を送りました。このような生涯をもった人は珍しいと言えるでしょう。彼は世界に目を向け、スケールの大きい男でした。当時西洋に知られていたのは、織田信長でも豊臣秀吉でもありません。それは大友宗麟だけだったのです。ドイツのヴァイセン・シュタイン城には、宗麟のザビエル



を豊後に迎えた場面が絵画(写真)となり飾られています。驚くことですがそれほど大友宗麟は西洋では有名なのです。4 年後の 2030 年に「大友宗麟生誕 500 年」を迎えます。この時に出来ればこのヴァンダイクの描いた絵画の本物を大分で公開できないものかと強く願っているところです。

皆様もこの記念すべき年に何か良いアイデアがありましたら是非聞かせて頂きたいと思います。

《宗麟が交流した主な人物》

武将では、足利義輝、織田信長、豊臣秀吉、豊臣秀長、長曾我部元親らがおおり、宣教師ではザビエルはじめアルメイダ、トルレス、フロイス、カブラル、ヴァリニャーノらが挙げられます。織田信長に宣教師が会えたのは大友宗麟の紹介状があったからでした。特に宣教師アルメイダとは無二の親友となりました。このアルメイダの影響で宗麟はキリスト教の信仰を持つようになったと思います。

宗麟はまた文化人としての側面があり、茶人千利休との交流もありました。戦国時代、茶のたしなみができることは武将にとって極めて重要で、宗麟は茶の湯の達人でもあったのです。

《宗麟を支えた家臣》

宗麟を支えた主な家臣としては、臼杵、吉弘、吉岡、田原、戸次、田北、志賀、一

万田氏ら大友一族の他に日田、佐伯、清原氏の国衆、そして若林氏の水軍衆が挙げられます。

その中で立花宗茂や父の戸次道雪(義父)、高橋紹運(実父)は有名です。宗茂と紹運は豊後高田の吉弘氏の出です。宗茂は、この二人の父(道雪と紹運)に教えられて立派な武将になったのです。島津軍に立花山城(福岡市)が攻められた時、城主であった立花宗茂は、若千20歳でありましたが、城を守り抜き島津軍の北上を止めただけでなく、島津軍を鹿児島まで押し戻す勇猛さを示し、豊臣秀吉九州平定に大きく貢献しました。この宗茂の戦いぶりを知った秀吉は、宗茂を「西国無双」(西国一の武将)と高く評価し柳川城主に抜擢したのでした。宗茂はその後関ヶ原の戦いの敗北のため城を追われますが、徳川家康にその実力が認められ柳川城主に帰り咲いたのです。大友氏改易後に大友家臣で一国の城主になったのは立花宗茂ただ一人でした。

《主な合戦》

① 毛利(山口)との合戦

(1557~1569)

これは、約10年続きました。詰まるところ博多の港を巡る戦いでしたが、毛利の九州攻めの隙となった山口を突く一計が功を奏し、漸く毛利を撤退させたのでした。

② 島津との日向合戦

(耳川の戦い1578年)

これに大友軍は大敗をしました。この戦いは、島津軍の戦法が一枚上手でした。また大友軍としては総大将の人選を間違えました。将の将たる器としてふさわしくない田原紹忍を選んだのです。大友軍は全く統率がとれずここで大敗をしました。この敗戦は大きかったです。敗因は、宗麟の甘さにあつたとの見方ができます。

二階崩れの変(1550年)に際して、その元凶であった入田親誠(ちかざね)をその時処罰したのですが、その子まではしませんでした。彼の寛容さが出たのです。しかしその子は島津軍へ内通し、豊後攻撃の手引きをしたのでした。宗麟にはこの寛容さが裏目に出たものが多いのです。

3. 大友宗麟から立花宗茂までのNHK大河ドラマの要望活動

次にNHK大河ドラマへの要望活動についてお話いたします。私は、この要望活動をしてもう10年を超えました。2012年より今年の2月まで渋谷のNHKへの要望に11回行きました。その内私は10回足を運びました。広瀬県知事(当時)をはじめ当時の県議会議長、大分市長、大分市議会議長も一緒にございました。

今年の2月には、佐藤県知事はじめ臼杵市長、津久見市長と私の4人でNHKにお願ひに行ったのです。(写真)その時の戦国物語は面白いですね」と言ってくれました。私の方から「もうNHKにお願いに来て11回になります」と言いますと「牧さん、まだ11回ですか。15回目で大河ドラマ決定になったところがありませんよ」といわれたのです。4年後は2030年に当たります。大友宗麟が誕生して丁度500年目に当たる年なのです。

このNHK大河ドラマ要望活動は、大友宗麟の家臣であった立花宗茂に関係が深い柳川市とも連携して取り組む話が進んでいます。来年のNHKへの陳情には、柳川市や福岡県も一緒にNHK訪問ができそうです。この誘致活動も来年が一つの勝負所と見ています。

大河ドラマの題名は『宗麟・宗茂それ行け!!』ではどうかとその実現を楽しみにしています。

4. 大友氏のその後と子孫

皆様もご存じの通り、大友宗麟の嫡子大友義統は、文禄の役の不始末により、大友氏改易となり常陸水戸に流されました。その後の関ヶ原の戦い(1600年)で大友の旧臣と再興を期しますが石垣原の合戦で黒田軍に敗北し、その望みは絶

たれます。自刃も許されず常陸の宍戸にて生涯を終えたのでした。

これで、大友氏は絶えたと思っていたのですが、最近東北や北海道に大友姓を持つ方が多いことがわかりました。

宮城県には 11,400 人、北海道 4,600 人、秋田県 3,000 人、茨城県 1,500 人、山形県 1,000 人という状況です。これが、大友義統の子孫関係者なのかそれとも豊後からの移住者なのかは分かりませんが、その数の多さに驚いているところです。この秋に大友氏顕彰会若杉理事長と一緒に東北を訪ね、大友姓の歴史に詳しい方にお会いできることを今からの楽しみにしているところです。

NHK 大河ドラマ誘致実現に少し期待できそうな動きが出てきたなかで、東北や北海道にこれほど多くの大友姓の方々がいるという朗報は、非常に嬉しく気持ちがるものがあります。

今後とも一層の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございます。(文責 青井勝久)

なお、青井勝久会長は大友氏顕彰会、牧・若杉・佐藤は素敵な大分を伝える会の相互に会員です。

■6月の定例学習会報告

会場／大友氏遺跡内・南蛮 BVNGO

交流館研修棟

6月6日(土) 13時30分～15時30分

【近況報告(若杉)】

8年度総会報告。その前にまず牧名誉理事長は福岡での大分県人会出席のため欠席、藤田事務局次長は数日前急遽体調不良で入院、来週早々手術する旨報告した。役員・会員のほとんどは後期高齢者につき、そのような状態に誰が見舞われても不思議ではない。配布した議事録は理事会用で、昨日ちゃんと総会議事録を準備したのに取り違えてしまった。こういったことが最近多くて皆さんに申し訳なく思っている。

●大分市が20数年前に策定した「大友氏関連の遺跡を市民のアイデンティティとして大友遺跡歴史公園化」を決定して当局と我われボランティアガイドは地道に活動してきた。そのメイン施設である「おおもてⅡ主殿」の復元が無期延期になった。しかし、2030年の宗麟生誕500年を目指している関係各位と我われの歩みを止めるわけにはいかない。

●昨年 NHK の歴史番組で大友氏関連が取り上げられている頻度が多くなったような気がする。6月9日(火)NHK の E テレの「知恵泉」で放送されること

を報告。この議事録は翌日の10日に書いているが感想は「すばらしい出来栄え」のひと言。45分間で一般視聴者には十分伝わったのではないだろうか。本郷和元東大教授の宗麟評は数年前に宗麟公まつりに来県した折りに好転したように申し分なかったと思う。

●TVの歴史番組で活躍中の各専門家が、いろんな場面で話題にしてくれることが大友氏を全国区にするのに一番早い。と言っても、やはり地元が盛り上がるのが第一だ。

●それも含め理事長として考えなければならぬのは、当顕彰会の例会の出席率をいかにして上げるかである。自分は他にも3団体の例会に参加しているが、どこも20数名、60名。当顕彰会が他と違う部分は「活動報告が重視」されているところだ。マンネリ化しているようで、もっと外部講師など招いて歴史の幅を広げる必要があると思う。各位にお願いしたいのは、まず参加したうえで意見を述べていただくことである。

●大分市の1%応援事業の投票用紙を出席者に配布。その際、2、3名の役員が半数近く集めているので各自20票は集めてほしいとお願いした。



①【大友氏時代の食文化を広めよう！
(佐藤)】

最新の「活動実績及び予定表」をもとに今年の「大友氏顕彰会の活動概略を説明。その中で、去年初めての試みであった

「府内のまち・文化フェス」を今年も開催予定とすることで、今年のテーマは「食」としての旨を説明。これに関連し『大友宗麟の勝負飯』(NHK番組DVD上映)『あのネプチューン3人も驚く大友氏の凄さ』を佐藤副理事長が番組を録画、それをみんなで視聴した。有名タレントが面白おかしく伝える力は我々がフォーラムで訴求するのと(比較するのがおかしいが)次元が違う(若杉)。

◎番組内では「牛めし」と「ソーリンカボチャの料理」が紹介された。さらにルイス・フロイス『日本史』の中には、宗麟一行が耳川の戦いで負けて豊後に帰ってくる時に、赤米を竹筒で炊いて食べ、飢えをしのいだという記述がある。4月にこの記録をもとに竹筒でお米を炊く試みが来迎寺にて行われ、その模様も紹介された。挟間には竹筒でお米を炊くことを研究されている方がいて、その方のご指導のもと、それは美味しいご飯が炊きあがった。以上のような豊国・戦国時代の「食文化」を今後は顕彰していきたいと考える。「府内のまち・文化フェス」でこの「食提供」のテーマが決まれば、会員皆さまの料理実演の協力をどうかお願い致します(笑)。

②【大友能直と豊後大分との関係を再度確認(佐藤)】 深掘り及び想像

◎今年の冒頭「新春の集い」でも説明したが、今年の定例学習会は、今までの出版物『大友氏の風景』等)の中から、記事を選びすぎり、基本に立ち返って、初めての参加の方にも分かりやすいものにしようということになった。その第一回目はやはり『大友能直』である。参考にする資料は『大友氏の風景』発刊前の平成24年(2012)に刊行された『大友氏400年』からの抜粋である。大友氏の歴代当主の流れを総括するにはこの資料が最も適していると思う。

◎能直の生涯をおおかた踏まえたうえで考えなければならぬのが『上記(ウエツフミ)』である。現状で最も新しく、分かりやすい資料と考える『大友能直公と「ウエツフミ」』(藤島寛高氏)をもとに、ウエツフミのおさらいも行う。

大友能直はある意味戦国時代より激動だったと思われるあの武士政権樹立の瞬間に、「ウエツフミ」を通して何が言いたかったのか、したかったのかを出席者みんなに問いかけ、考えてもらった。この答えは、おそらく鎌倉時代全体や豊後の解明だけではなく、今世界の文化人類学者が注目している日本の古代史研究にもつながると期待してやみません。この『大友能直公と「ウエツフミ」』の解明を大友氏顕彰会の重大ミッションと位置づけ、今後も活動が続けていきたいと考えます。

次は久しぶりの安部可人さんの講義です。彼の演題は「氣付き」を教えてください。私の場合「知ってるつもり」がいつも再確認させられています。以下私の感想を述べます(若杉)。

「真の武士道精神とは」

●以下広辞苑による。

◎武士道とは「わが国の武士階層に発達した道徳。鎌倉時代から発達し、江戸時代の儒教思想に裏付けられて大成。忠誠・犠牲・信義・廉恥・礼儀・潔白・質素・儉約・尚武・名誉・情愛などを重んずる。葉隠「―と云うは死ぬことと見つけたり」↓騎士道。とある。

この葉隠「云々」のみで終わっているところが問題。そこで葉隠を引くと

◎武士道を論じた書。元佐賀藩士山本常朝口述、田代又佐衛門陣基(つらもと)筆録。1716年(享保1)頃成る。藩内外の武士の言行の批評を通じて武士の道徳を説く。葉隠聞書。葉隠集。葉隠論語。鍋島論語。とあり、私としては少し消化不良。それでネット検索すると

◎「死ぬことと見つけたり」の真意。「死を恐れずに覚悟を決めることで、返って執着が無くなり、今この一瞬を全力で悔いなく生きられる。決して死を美化するものではなく、常に自分の死を意識して覚悟を持つことで、日常の判断や行動にブレをなくするための教え。

なるほど…これで納得。次に

◎「主君への無私の忠義」や「死狂ひ(しぐるい)」、「日常のたしなみと人間関係」などがあるが割愛、関心のある方は自分で調べてください。

「歎異抄の真意」

●以下広辞苑による。

◎親鸞の語録。1巻。弟子唯円の編といわれる。親鸞没後に起こってきた異義に對し、師の真意を伝えようとしたもの。蓮如によつて禁書とされたが明治以後広く読まれるようになった。これだけではよく理解できないのでネット検索すると次のようである。

●ネット検索

◎弟子の唯円(ゆいえん)が、(自分以外の)弟子たちの間で異なる解釈が広まるのを嘆き、本来(親鸞)の純粋な教えを後世に伝えるために書いた書。※詳細は割愛

◎有名な一節に「善人なおもて往生を遂ぐ、いわんや悪人をや」。現代語訳「善人でさえ極楽浄土に生まれることが出来るのだから、ましてや悪人が救われないはずがない」。意味として「自分には善い行いが出来る」と自惚れている善人より、自分の煩惱の深さや罪深さを自覚している悪人こそが、阿弥陀仏の「そのまま救う」という慈悲の対象であることを説いた逆説的なことば。

なるほど、なるほど！詳細は割愛したが何故多くの人を魅了するのかと、まとめられているので最後に引用する。

◎親鸞の難解な思想が平易かつ情熱的なことばで綴られており、近代では多くの文学者や思想家に愛読された。特に「善人なおもて往生を遂ぐ」のような人間の本質を突いた哲学は、宗教の枠を超えて人生の指針として現代でも広く読まれている。

蛇足…親鸞自身が「私には弟子はいない」といったという。つまり、自分も同じ探求者であり弟子と呼ばれた者に対し上下の意識はなく同士(学友)という思いだったらしい。

トランプやプーチン、習近平ら大国の指導者は歎異抄を読まなければならぬ。でもトランプが理解するのはムリムリ！※7月例会にはこの2ヶ月触れられなかった「8年度研修バス旅行」とき11月12日(日帰り)8時〜18時30分大分駅東横バスプール発着。研修旅行の予備知識「日向高城川合戦とは」の時間をとる。

次頁は寄稿。久しぶりに当顕彰会の顧問である作家の櫻田啓先生から寄稿をいただいたので掲載させていただきます。なお、この原稿は『大友氏の風景(14)』でも掲載する予定です。

― 大友水軍の中核・若林水軍の一 考察とエピソード ―

櫻田 啓

1 戦国期における水軍の概況

先ず「水軍」とは江戸時代初期にうまれた呼称であり、古来は「海賊」と称されていた海の武闘集団をいう。海賊という荒くれる海の無法者、盗賊というイメージがあるがそうではなく、陸で政権を牛耳る大名に対して、海洋の制海権を牛耳る武闘組織、すなわち「海の大名」のことである（この稿では「水軍」に一して記す）。

四方を海に囲まれたこの国における水軍の歴史は古く、すでにヤマト政権時代には各地で水軍が活躍していたという記録も残されているが、この稿では中世以降の水軍、とくに戦国時代における水軍について考察してみたい。

戦国時代における主な水軍には、九州西海に君臨した「松浦水軍」、瀬戸内海に君臨した「村上水軍」、紀伊灘に君臨した「九鬼水軍」をもって三大水軍と称することもある。戦国大名たちはこぞって水軍を味方に取り込み、海の戦力として活用した。

ここで、当時の名のある水軍を列挙してみたい。

○日本海・佐渡海域の安東水軍 ○若狭・山陰海域の尼子水軍 ○房総海域の里見水軍 ○相模海域の三崎水軍 ○伊豆・下田海域の伊豆水軍 ○土佐湾の長曾我部水軍 ○豊後水道の若林水軍 ○大隅海峡の防津水軍 などがある。

余談ながら、織田信長の擁する九鬼水軍と毛利氏擁する村上水軍が石山合戦で衝突し、九鬼水軍の鉄鋼船が毛利水軍を打ち破ったことはつとに有名である。だが、徳川の時代になると全国の水軍は淘汰され、徳川水軍に編入されてしまった。村上水軍の来島氏は豊後森藩へ、九鬼水軍の九鬼氏は摂津三田藩へと追いやられ、海上権益を奪われてしまった。つまり、陸に上がったカップにされてしまったのである。

2 「若林水軍」について

若林水軍は、宗麟の時代に大友水軍の主力をなした水軍である。若林氏は、海部郷の一尺屋を拠点とした「海部（あまべ）」である。海部とは、海のそばに暮らす人々のことであり、本来は「海辺（あまべ）」という。

古来より、海辺衆は獲った魚介や海藻を朝廷や大友家に献上していた。そのため、朝廷から「海部」の称を賜ったといわれている。

佐賀関では、現在「関アジ」「関サバ」

が全国ブランドとして有名であるが、この地方の海部には古来「白水郎（はくすいろう）」と呼ばれる男の海士（あま）がいた。彼らは海に潜って鮑や海藻を獲り、一本釣りで鯛や烏賊（いか）を獲って暮らしていた。ブランドの関アジ・関サバと評価されるのは、現在でも一本釣りによって獲られたものをいう。古来からの漁法がいまに継承されているのである。

海部衆は、魚介類や海藻を獲って生業とするほか、造船や操船技術に優れており、宗麟の時代には大友水軍として、朝鮮半島、中国大陸、東南アジアとの海外



若林氏の居城「摺木城跡」より水軍の拠点とした一尺屋の集落と支配した豊後水道を望む

交易や警固・兵船として活躍した。一尺屋を拠点に、佐賀関から臼杵、津久見、佐伯の豊後水道沿岸には、若林家のほか有力水軍衆として上野家の名前が挙げられるが、上野水軍に関しては若林水軍以前に十四、五世紀にやはり大友家の遣明船の「軍船司」として中国大陸に渡って活躍していることは特筆すべきである（大友水軍に関しては名古屋学院大学国際文化学教授の鹿毛敏夫先生の研究、文献を参照にしてください）。

本稿では、大友水軍として活躍した若林（わかばやし）鎮（しげ）興（おき）について述べることにするが、その論拠は一尺屋の若林家から拝借した資料に基づくものであることをお断りしておく。

若林鎮興は、天文十六年（一五四七）、若林越後守の嫡男として生まれる。若林家はもともと下野国の豪族であり、室町時代初期より鎌倉御家人の大友家に被官していたが、大友氏が豊後守護職となつた頃より豊後に下向し、佐賀関郷一尺屋を所領とした。その地理的要素から、次第に大友氏の水軍として中核的存在となつてきた。

鎮興の妻は、大友義統の側用人（筆頭祐筆）を務める浦上（うらがみ）長門（ながと）（入道して道冊（どうさく））である。道冊は、宗麟の影響を受けて茶の湯に造詣が深く、茶人としてひとかどの人物であ

あつた。

3 エピソード

① 対毛利戦

永祿十二年（一五六九）四月、毛利元就が九州進出を図り、自ら兵を率いて赤間関（下関）まで進出してきた。対する宗麟は、若林水軍を率いて臼杵を發ち、高良山（久留米）に進出して指揮をとった。毛利・大友決戦の舞台は立花城である。

吉川・小早川の毛利軍五万は一気呵成に立花城を包囲した。宗麟率いる大友軍は十三万の大軍であったが、南北五城の守りに兵を分散させたため、立花城奪還には手を焼いた。そこで元就は、小早川水軍を上毛郡、下毛郡に上陸させ、村を焼き払ったうえ、別府湾まで侵攻して船を奪った。後方かく乱戦に打って出たのである。

宗麟は、重臣吉岡宗敏の提言策を入れ、一計を講じた。

豊後には、毛利に敗れた周防大内家の血筋である大内輝弘が亡命していた。輝弘は大内家の再興を画策している人物であり、さらに、毛利によつて滅ぼされた尼子家の遺臣山中鹿之助もまた尼子家再興を願つて孤軍奮闘している。

宗麟は、この二人に毛利の背後から攻めるように手を打った。先ず、山中鹿之助が動いた。鹿之助は旧領の出雲に乱入

し、かつての尼子の城である上月城に籠つた。十月一日には、五〇〇の兵を率いた大内輝弘が長門の合尾浦に上陸し、山中鹿之助の尼子勢と連携して出雲・安芸、周防・長門で猛攻を仕掛けた。

前面に大友本隊、後方に大内・尼子の連合隊に挟まれた毛利輝元はさすがに血の色を失った。すぐさま撤退の号令をかけ、九州進出をあきらめた。

この戦で活躍したのは若林鎮興である。敵対する毛利水軍を蹴散らし、大内隊を見事に合尾浦に上陸させた。毛利の九州進出を阻止した鎮興の功績は大きい。

② 国東反乱

天正八年（一五八〇）八月、国東浦部城主で大友庶流の田原親貫が謀反を起こした。義統はこのとき、若林鎮興に命じて水軍を安岐に出陣させた。一方の田原親貫は毛利輝元と小早川隆景に援軍を要請したため、毛利・小早川連合軍は村上水軍の兵船数十艘を仕立てて安岐浦へやってきた。鎮興率いる若林水軍はこれを迎え撃つて撃退したうえ、周防の室まで進軍し、敵船一艘を切取り、鎮興自ら敵將の野田弥左衛門の首をはねている。

この戦功に対し大友義統から感状と刀一腰を授かった。



南蛮BVNGO交流館前にある大友宗麟像＝大分市顕徳町

大友宗麟（1530～87年）と聞くと、「キリシタン大名」との呼び名を思い出す人が多いだろう。しかし近年、国際交易や都市経営、新しい技術や文化を受け入れた優れた領国経営者としての側面が注目されている。背景にあるのは、史料研究や本拠地・府内（現大分市）の

大分合同新聞社様には大友氏顕彰会発足以来、ことあるごとに記事にしていたいただき感謝に耐えませんが、左に直近の記事を転載させていただきましたが、論説欄では私の記憶では初めてです。しかも内容も字数の制限がありながら申し分ありません。これからもよろしくお願いいたします。なお、会員の皆様方にはこの記事の転載

発掘調査の進展だ。4年後の2030年には生誕500年を迎える。あらためて顕彰したい。大友氏遺跡の発掘は1996年に始まり、2001年に国史跡に指定された。一辺約200メートル四方に整えられた館を中心に、周囲に街路で区画された計画的な都市空間が整備されていたことが判明している。

大友氏館のすぐ隣に中国系住民の唐人町があった点は注目すべきだ。ベネチアングラス、中国陶磁などが出土しており、交易や国際交流の場を政治の中枢に置いた。教会や西洋式病院が近くに建てられていることから宗麟の国際性や先進性、寛容性がうかがえる。豊後・府内で南蛮文化が花開く礎となった。国内の国盗り合戦に終始せず

論説

2026.6.7

再評価進む大友宗麟

やコピーをして友人知人に差し上げること、また、ネット等での拡散は禁止されています。一方、残念なことは今年になって大分市が大友氏遺跡歴史公園化のメイン施設である「おおおもてⅡ主殿」の復元を無期延期にしたことです。当時の大分市の夢あるこの計画を信じて立ち退いた住民の方々の思

対外的な活動に重きを置いた。交易圏は東南アジアから南アジア、ヨーロッパへと広がる。南蛮貿易を積極的に進めた結果、府内は堺、博多と並ぶ国際貿易都市へと成長。九州6カ国の領主、九州探題職に上り詰めた宗麟の存在は、ザビエル以来の宣教師記録を通じ早く

歴史的価値を県の財産に

からヨーロッパに伝えられた。当時の欧州製地図には九州を「BVNGO」と記すものもあり、豊後は特別な存在として知られていた。

こうした歴史的価値を県全体の財産として生かす動きを促したい。大友氏館跡の中に18年に開館した南蛮BVNGO交流館

いを踏みにじることにはならないのでしょうか？さらに今まで投じて来た経費もムダにならぬよう再考を望んでやみません。

なお、この会報の掲載は許諾を得ております。（若杉）

（大分市顕徳町）は宗麟の生きた時代を体感できる施設で、復元整備した庭園や映像資料などがある。建物群が復元されればさらに魅力が高まるだろう。宗麟と府内の新たに分かつてきた姿を発信する拠点として広くPRすることが求められる。天然の海城や交易拠点として

丹生島城を築いた臼杵市、終焉の地である津久見市ともさらなる連携が必要となる。家臣団やキリシタン文化の広がりを含むせた広域的な歴史観光ルートを定着させよう。来訪者の満足度を高めるため、各史跡周辺の清掃や環境整備が課題だ。地元之宝と再認識した上で、行政が旗を確実に生かそう。

文化共生が課題となる現代にも通じる価値を持つ。生誕500年に向け、大分がかつて世界とつながる先進的な都市だったことを再認識し、その歴史的価値を世界へ発信する準備を加速させたい。県と関係市町、研究者、県民が一体となり、この機会を確実に生かそう。